

平成 28年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4572100602		
法人名	特定非営利活動法人いきいき会		
事業所名	グループホームなごみ	ユニット名	東
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町須賀崎4丁目48番地		
自己評価作成日	平成29年 1月 25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajikokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail;2016_022_kanistrue&amp;jevyoCd=4572100602-00&amp;PrfCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kajikokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail;2016_022_kanistrue&amp;jevyoCd=4572100602-00&amp;PrfCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成29年2月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当グループホームでは、「その人の思いを大切に、その人の思いを自分自身に置きかえるケアを推進し、その人の笑顔がみたい」を理念として利用者の支援にあたっている。日常生活においては施設側の業務の流れに利用者をあてはめることなく、あくまで利用者の同意や納得を得ることを第一に考え、柔軟にケアを行っている。このような「待つ」ケアを行うことによって利用者の残存機能を最大限に生かし、心身共に充実した生活を送ることができると考えている。実際当グループホーム内では、ゆったりと落ち着いた時間が流れていることが多い。また地域の一員として地区の行事に参加したり、当グループホームの開催の行事に対して地元の方に参加してもらい、地元高校生の実習を受け入れるといったことを継続して行っており、地域と利用者・スタッフの交流も深まってきている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は常に理念を意識し、利用者の立場を自分自身に置き換えて日々のケアを実践している。業務主体にならないよう柔軟に対応し、利用者主体のケアを実践している。資格取得を積極的に支援し、処遇改善に努め、研修参加を奨励し、研修内容を勉強会で職員に伝達している。ゆとりをもって利用者を見守るケアを提供できるよう、日中は3人以上の職員を配置している。勤務体制に希望を聞き入れ、職場の人間関係もよく、働きやすい職場環境となっている。地域との関係を大切にしており、相互に行事に参加し交流している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	グループホームなごみ(東)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内や、職員詰所の目に付く場所に理念を掲示している。毎月行われる勉強会の際には参加職員全員で理念及び基本方針を読みあげ理念の浸透に努め、実践につなげている。	ホーム内に理念を掲示し、勉強会でも確認し、理念を共有してケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区で行われる遠足や餅つき等の行事に参加させていただいている。秋に行われる地区の祭りでは園庭にて催しをしていただき、地域との関係が密にできている。	地区の行事に参加し、ホームの行事には行政や地域の人の参加があり、地域とのつきあいを大切にしている。秋の地域祭りには地域住民ほか100人以上の参加があり、敷地内で昼食会を開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	門川高校の実習生を毎年受け入れ、認知症利用者に対するケアの仕方を丁寧に指導し、これからの地域介護を担う者の育成に貢献している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。利用者の生活状況や今後の活動予定等を報告し、特に防災や防火についての話し合い意見交換して、サービスの向上に活かしている。	出席者から活発に意見や提案が出されている。避難訓練時の対応や介助方法について提案があり、訓練に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や地域包括支援センターとは、運営推進会議を通して直接意見交換を行っている。また他にも電話や訪問の機会を作り、連携を図りながら協力関係を築いている。	運営推進会議で定期的に現状を報告し、意見交換を行っている。ホームの行事に担当職員が積極的に参加するなど、協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修などから身体拘束の知識を深め、職員は常に介助方法の話し合いを持ちながら、身体拘束をしないケアを心がけている。	研修会に参加し、その内容を勉強会で伝達研修を行い、全職員で拘束のないケアの実践に取り組んでいる。言葉遣いについては職員間で話し合い、改善に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会でも取り上げ、ちょっとした言葉かけや行動が虐待に繋がるものになっていないか、一つ一つのケアを振り返るようにし、各職員がケアにあたっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームなごみ(東) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修で権利擁護に関する制度の理解に努め、必要性のある利用者については、地域包括支援センターや、社協とも連携をとりながら、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には利用者本人と家族に十分な説明を行っている。料金改定においては書面にて説明を行い同意を得ており、不安や疑問に感じることはないか何でも言ってもらえるように声かけを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等ある場合は面会時に職員が聞き、申し送り等で直ちに話し合っている。運営推進会議においても意見や要望の聞き取りを行い、率直な意見などをいただき、サービスの向上につなげている。	運営推進会議で家族が発言する機会を設け、出された意見を運営に反映している。ホーム開設から10年以上が経過し、家族の提案で建物の改修工事やガスからIHヒーターへの交換を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行う申し送りや、月一回開催の勉強会で意見交換を行い、運営やサービスの質の向上に努めている。	申し送りで出された意見を改善につなげている。食事介助の必要な利用者が増え、開始時間を少し早めて食事時間の調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加を奨励しており、その条件を満たした職員については処遇の面でも配慮し、向上心を持って働ける職場作りに務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図り、各自の力量を把握したうえで、外部研修へ参加する機会をもてるようにしている。		
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や運営推進会議にて、他事業所との交流の場があり、意見交換を行っている。他事業所の運営推進会議にも積極的に参加して意見交換・質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホームなごみ(東)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、面談を繰り返しながら十分な説明や関係づくりを行っている。利用者様本人の意思表示が困難な場合は、家族や担当の介護支援専門員に話を聞くなどして、良好な関係作りに努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、本人やご家族様の思いや要望を受け止め、関係作りに努めている。面会時などに、利用者様の状況報告もこまめに行うことで、良い関係を築いている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談でご本人様・ご家族の要望や不安な点を十分な聴き取りを行い、あらゆるサービスを視野に入れながらその方にとって本当に必要なサービスが受けられるように支援している。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活歴や現在の能力をアセスメントした上で、今できる事を見極め、洗濯物や掃除などのできる事は一緒に行うようにしている。また一緒にお茶を飲んだりなどの時間が生活の中で毎日ある。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会があり、またホームの行事、食事会にはなるべく参加していただき、ご協力いただいている。面会時には、本人とご家族様がゆっくりと話をしたりできるよう配慮している。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に応じて、以前買い物に行っていたスーパーに行ったり、その地区の遠足や集まりに参加したりなど、なじみの生活を尊重して支援している。		敬老会や地区の祭りなどへの参加を支援している。毎週友人が来訪する利用者もいる。毎月の定期受診の際になじみのスーパーでの買物を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解したうえで、利用者様同士が関わり、支え合える関係がもてるように支援している。				



自己	外部	項目	自己評価	グループホームなごみ(東)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や事情で退去される場合、情報提供書を作成し担当ケアマネ等との連携を行うことで環境の変化における周辺症状などを最小限に食い止める様に工夫している。その後も必要に応じ家族に電話・面会等行い、不安の除去に努めている。		/	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から思いや希望をしっかり聴き取り、本人本意の生活が送れる様に支援している。意思表示ができる方はご本人から、困難な方にはご家族様からそれぞれ情報を得て一人ひとりの生活に反映している。		入浴時の会話を大切に、利用者の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合は、包括的自立支援プログラムのアセスメントシートの活用や家族からの情報、日々の生活の中で仕草や表情から推察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取りを行っている。また家族やケアマネージャーからも情報を得ながら、日々のケアへ反映している。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、身体能力や認知力・理解力の程度の把握に努めている。それをもとにご自分でできる事とそうでない事を見極めながら、残存機能を活かす様に生活の支援に努めている。		/	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化などによって臨機応変にケアプランの見直しなど行っている。ご家族や必要な関係者の方からのアドバイスを取り入れながらアセスメントし短期・長期目標を定め、現状に即したプラン作りに努めている。		現状に即した介護計画を作成して毎月カンファレンスを行っている。日々の介護記録に各勤務時間帯の利用者の状態を色別に記録し、利用者の発言を具体的に口述筆記しているが、記録を介護計画の見直しに活用・反映するまでに至っていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録と介護支援経過記録は個別に記入しており、日々の申し送り時などに利用者個々の情報を職員間で共有し、ケアに活かしながら介護計画の見直しに活かしている。		/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の中で、その時におけるニーズや思いを尊重しながら、施設の生活ペースに合わせるのではなく、本人のしたいことを優先的に支援しながら生活が送れるようにしている。		/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームなごみ(東) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで開催する行事には地区の方々に参加していただいたり、行事などでのボランティアによる催しや生け花教室を開いていただいたりなど、地域の資源を活用しながら利用者様の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族にかかりつけ医の希望があれば、なるべくそのままのかかりつけ医との関係が途切れることなく支援している。緊急の場合は、やむを得ず別の医療機関を受診することもあわせて説明している。	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診している。原則、受診は家族対応としており、ホームは日常の様子などの情報を提供している。家族の対応が困難な場合は、適切な医療が継続して受けられるよう職員が対応し受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はケアの中で常に観察を行い、体調の変化などがあれば、何でも看護職員に報告し、指示を仰ぐようにしている。看護職員は受診の判断、医師への正確な報告、訪問看護師への情報提供などの業務を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も医療機関の看護師やワーカーからこまめに情報をとるようにし、必要に応じて面会や情報提供を行いながら、早期退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で終末期覚書の聞き取りを行っている。また状態の変化などあった場合でも、再度聞き取りを行いご本人やご家族の意向を確認し、職員全員で共有している。また、ホームでは主に医療の面でできる事に限界があることも説明し、ご理解いただいている。	入居時や状態の変化時に意思確認を行い、ホームでできることとできないことを説明している。町内に訪問診療を行っている医療機関がないため看取り支援には至っていないが、終末期でもできるだけホームで生活できるよう支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生や対応についての研修会には積極的に参加している。研修内容を勉強会で訓練などを行いながら職員全員に周知していくことで、実践力を身に付けるよう取り組んでいる。		

宮崎県門川町 グループホームなごみ(東)

自己	外部	項目	自己評価	グループホームなごみ(東)		外部評価	
				実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの下、年2回計画実施している。今までは火災を想定した訓練が主だったが、水害時の訓練も行っている。運営推進会議でも災害時の対応について取り上げている。	訓練時に近隣に声かけをしているが、一緒に訓練に参加するまでには至っていない。熊本地震の際には一週間職員を派遣している。運営推進会議で水害時の避難について提案があり、避難訓練を行っている。	近隣の住民にも災害時に役割を担ってもらい、また、ホーム内の状況や利用者の状態を知ってもらえるような働きかけを行い、地域の人を巻き込んだ避難訓練の実施を期待したい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対し尊敬の念をもち、馴れ合いの言葉にならないよう、気を付けている。また職員間でもお互い注意し合いながら言葉使いに気を付けている。	職員は、自分がされて嫌なことはしないと自分に置き換えて、言葉遣いや対応に気を付けるよう心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自分の意思で自己決定することで残存機能を活かしながら生活が出来るように支援している。意見を出すことが困難な利用者様についても、表情や仕草を観察しながら対応することで、自己決定の支援としている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や日々の行動・言動をもとに本人の希望を出来る限り尊重し、本人のペースに合わせて一日を過ごして頂いている。スケジュールはある程度決まっているが、利用者様の状態や意思に沿って柔軟に対応している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際など本人に選んでいただき、希望に沿った身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している。理美容については、必要に応じて訪問美容を利用しており、利用者様の希望を伺いながら、髪型を整えている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝いや、片付けなど出来る方は一緒に行っている。食事は職員も一緒に食べ、会話をしながら楽しい食事ができるようにしている。	食事形態について職員間で話し合い、改善している。一人ひとりに合わせて食事介助や声かけを行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を作り、一人ひとりの食事量を毎日把握している。その人の状態にあわせて食事の形態やメニュー変更の検討を行っている。水分量に関しても、必要な方はチェック表を用い必要量を確保できるように工夫している。				

宮崎県門川町 グループホームなごみ(東)

自己	外部	項目	自己評価	グループホームなごみ(東)		外部評価	
				実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨ける方には声かけを行い、介助が必要な方には、職員と一緒に誘導しケアをしている。口腔内の状態のチェック、義歯の手入れや不具合などはないかなども合わせて確認し必要なケアを行っている。				
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が可能な利用者様については、なるべくトイレで排泄できるように援助を行っている。また立位困難な利用者様については、職員の多い日中だけでもトイレ誘導を試み、なるべくオムツOになるように取り組んでいる。	立位が困難な利用者には2人体制で介助し、トイレでの排せつができるよう支援している。排せつチェック表を活用し、声かけ誘導を行っている。入院中はオムツだった利用者がリハビリパンツになり、排せつの失敗が改善された事例もある。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の見直しを行ったり、運動量を増やすなどして、一人一人の排泄パターンを把握しその方の状態を見極め、なるべく薬に頼らない排便の援助を行っている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回入浴を行っている。個人の希望や定期的入浴に拒否がある場合など、曜日時間に関係なく入浴が出来るようにし、臨機応変な対応を心がけている。	入浴を拒む傾向の利用者には個別に声かけをし、入浴を支援している。自宅では1か月以上入浴していなかった利用者が、声かけ誘導により入浴できるようになっている。入浴時間を利用者とのコミュニケーションの場として大切にしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や和室で自由に休息を取っていただいている。夜間眠れない場合は、原因はなにか話しをよく傾聴したり、生活パターンから見直したりしながら、臨機応変な対応を行っている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、管理を行っている。看護師の指導の下、介護職員も薬の作用と副作用を十分に理解し、適切な服薬管理に努めている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活を送れるよう、その人の力に応じた役割を担ってもらったり、その方の今したい事に焦点をあて、ご家族様の協力も得ながら希望に沿った事が出来るように支援している。				



宮崎県門川町 グループホームなごみ(東)

自己	外部	項目	自己評価	グループホームなごみ(東)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩や見守りパトロールに加え、買い物などの希望があれば、その都度臨機応変に対応している。利用者様の楽しみや気分転換につながっている。	庭での外気浴や見守りパトロールなど、周辺の散歩を行っている。定期受診時になじみのスーパーで買物をしたり、地域の行事や花見など季節に応じた外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	利用者様から希望があれば、家族と相談のうえで少額の現金を、職員の援助のもとで自由に所持できるよう対応している。買い物時の支払いも、なるべく自力で出来るように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の援助を行なっている。また、年賀状などのハガキを一緒に作成し家族に送っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境面に関して入居者と職員でホールの飾りつけを季節や行事にあわせて変えることで、季節感や生活感を感じて頂けるように工夫している。空調管理なども小まめに行い、居心地の良い環境づくりを目指している。	玄関ホールに家具店から寄贈された雛人形を飾り、また、ユニット内も季節を感じられるような工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫したりすることで、気の合う方と話が弾んだり、また個別の時間を大切にし、和室などは常に開放している。和室にて日光浴を行ったりお茶を飲んだりなどゆったり過ごせる空間作りに一役かっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスなど本人にとってなじみの深い物などを置いていただけよう、家族に依頼し、安心して暮らせるように工夫している。	居室には自宅で使用していた家具やポータブルトイレなどが持ち込まれ、自宅での生活の延長として安心して暮らせる工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解し、過剰な援助とならない様に環境を整えながら、できる事は見守り、安全かつできるだけ自立した生活が送れる様に工夫している。			